

藤久保地域拠点施設整備等事業【基本設計、進行中！】

藤久保小学校イメージ

- 藤久保小学校
- 藤久保学童保育室

複合公共施設イメージ

複合化される既存の施設や機能

- 藤久保児童館
- 子育て支援センター
- ファミリーサポートセンター
- 保健センター（健診機能）
- 中央図書館
- 藤久保公民館
- 藤久保出張所
- ふれあいセンター（サロン機能の一部）
- 三芳町商工会
- 三芳町社会福祉協議会

複合施設のフロアイメージ

社会福祉協議会 商工会など			3F
図書館		テラス	2F
地域交流ゾーン (現在の公民館や出張所などの機能やホール)	子育てゾーン (児童館や子育て支援センターなどの機能)	民間収益 (コワーキングエリアなど)	1F 広場



コンセプトは5つの機能のつながり

- 教育 子育て
- 健康 福祉
- 市民 活動支援
- 情報 ビジネス

藤久保地域拠点施設整備等事業の基本理念は「集い・学び・育つ」〜輝く未来創造拠点。図書館を中心に公共施設が複合化する本計画は、人が集まり、学び、共に育つことで、人と人のつながりができ一体となって未来を創造していくものです。

? なぜ複合化するの？

町の施設の建て替えには、将来的な人口減少に備えた縮小化が必要です。しかし、それぞれの施設を単純に縮小化すると、サービスの低下が予想されます。そこで、施設を複合化することでエントランスやトイレなどが共有でき、コストを削減しながらサービスの維持が可能となります。

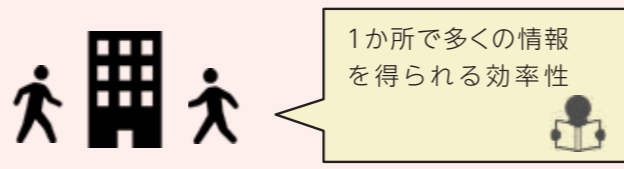


施設の枠を超えた相乗効果

複合化のメリットはサービスの維持だけではありません。図書館や保健センターなど、様々な施設が1か所に集まることで、施設の枠を超えた事業を展開したり、サービスの提供がよりスムーズになることが期待されます。

? なぜ図書館中心に複合化？

多くの施設が複合化する中で図書館を核とするメリットは、図書館利用者を他の施設へ誘導し、利用を促すことができます。逆に他の施設利用者に対しては、図書館へ誘導して有用な書籍・情報を提供することが可能となるため、図書館の存在は欠かすことができない施設になります。



図書館利用者数の多さ

藤久保拠点施設において図書館の利用が最も多く、各施設利用合計者の約半数を占める134,531人が利用。1日あたりの利用者数も他施設より突出して多く、約475人の利用があります。



本は人生を豊かにする

「よみ愛・読書のまち」。

のぞいてみよう！未来の図書館！



「よみ愛・読書のまち」

赤ちゃんからお年寄りまで誰もが生涯に渡り、読書を楽しめるように「よみ愛・読書のまち」になることを目指し、毎月23日は「よみ愛・読書の日」と定めています。

人 □1人あたりの本の貸出冊数が埼玉県内で22年連続1位を更新している三芳町。平成28年には「よみ愛・読書のまち」を宣言し、ブックスタートなどをさまざまな取り組みで、誰もが読書に親しめるまちづくりを推進してきました。これからは、皆さんの人に本の楽しさを知ってもらいたいという想いから、令和8年には現在の図書館とその周辺の公共施設が生まれ変わります。すべての人の居場所となる「輝く未来創造拠点」をめざし、計画が進められている現在の姿に迫っていきます。